

図書館だより

●開館時間●

9:00～18:00

●2月の予定●

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

■ 休館日

■ おはなし会

■ ひろたのみんのおはなし会

■ にこにこほっぺのおはなし会

砥部町立図書館

☎(962)4400

新着紹介

『償いの流儀』

『類』

『死神の棋譜』

『もっ、聞いえな』

『海の怪』

『心淋し川』

『灯台からの響き』

『しょうがの料理』

『戦国の図書館』

『文豪たちのずい謝罪文』

神護かずみ

朝井まかて

奥泉 光

誉田 哲也

鈴木 光司

西條 奈加

宮本 輝

有元 葉子

新藤 透

山口 謠司



『降るがいい』

佐々木 譲

河出書房新社 刊

本番当日に失踪した舞台女優と数年ぶりに再会した脚本家の心に去来したものとは…。『不在の百合』をはじめ、都会の片隅で生きる人々の一瞬の「真実」を描いた人間ドラマ、全13編を収録。



『雪月花 謎解き私小説』

北村 薫

新潮社 刊

乱歩に三島、芥川…。本を読んではスパークする作家魂。花野を歩く心地にて、さらなる謎を探り行き。読む愉しみを分かち合い、時空をめぐる日常の冒険をつづった、初の私小説。



『ブラウスを縫おう。』

かたやまゆうこ

主婦と生活社 刊

フレアライン、シャツ、Vネック、ラグラン、ドルマンなど、本の7つのデザインと、それをアレンジした全20着のブラウスを紹介。あやふやになりがちな部分縫いはプロセス写真で解説する。

役者 井上正夫

☎(962)5952
 岡山社会教育課文化スポーツ係

井上正夫は、さまざまな文化人と交流がありました。中でも小説家で、国会議員を務めた山本有三とは長年の付き合いでした。

1910(明治43)年、井上が新時代劇協会を立ち上げた頃に山本と知り合いました。

1913(大正2)年、山本らが後援者となり、井上が野外劇「紅玉」を演じました。

1914(大正3)年、井上の盛岡や仙台の巡業に山本がついて回っています。

1915(大正4)年、井上が浅草で連鎖劇に出るようになりました。これは山本が、浅草の劇場の専務と知り合いで、話を通してサポートしてくれたからです。

1920(大正9)年、山本が書いた戯曲「生命の冠」は好評を博し、井上正夫によって上演されました。また、本が出版された際、装丁は井上正夫が行いました。

1943(昭和18)年に発表された「米百俵」は、井上演劇道場

の弟子たちが道場を抜けた後、山本から井上に慰めの電話があり、井上のために書いた脚本でした。

2人の友情は生涯続き、お互い良い作品を作るのに、影響を与え合ったと言えます。

(学芸員 宮本直美)



「生命の冠」



「米百俵」